氏名	大中 一彌 (教授)
こんな研究をしています	<p>【学問分野】政治学、政治思想 【地域】フランス語圏</p> <p>【キーワード】ヨーロッパ、文化史、社会科学、認識論</p> <p>【関心】言語や文化のはざまにいる人たちや、そこから生み出されるものに関心があります。</p>
こんな成果を挙げています	<ul style="list-style-type: none"> ・「マージナル・マン論再考」『異文化』23号、2022年。 ・「黄色いベスト運動 — あるいは21世紀における多数派の民衆と政治」『対抗言論』法政大学出版局、2019年、254-289頁。 ・杉田孝夫・中村孝文編『市民社会』第八章 現代フランスの「スカーフ問題」における市民社会と国家 199-222頁 おうふう 2016年。 ・「移民社会の論じ方 — ジェラルール・ノワリエルにおける記憶と歴史 —」『思想』岩波書店 1096, 171-187頁 2015年。 ・『フランスという坩堝』 ジェラルール・ノワリエル 法政大学出版局 2015年 (翻訳)
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	<ul style="list-style-type: none"> ・フランスにおける社会統合 (人びとをどうまとめあげていくか) <ul style="list-style-type: none"> 例1: ヴェルサイユ宮殿に代表される古典主義文化がもつ政治とのかかわり 例2: 20世紀以降におけるイスラームと非宗教性 (ライシテ) の紛争 例3: 現代フランスにおけるさまざまな社会運動 (Ch. ギリュイのいう「周縁部のフランス」のそれを含めた) とポピュリズムの関連 ・特定の人や作品、運動やコミュニティを対象を絞った研究を歓迎します。
こんな授業を行なっています	<p>国際文化研究科「多言語社会論A」と「多言語社会論B」を担当しています。誰もが知っている《青》という色の意味を考えるとところから出発します。青い髪を扱った作品を紹介するところから話をはじめの予定です。</p> <p>授業のテーマを紹介するショート動画 (それぞれ約6秒)</p> <p>多言語社会論A https://youtube.com/shorts/8jK2B1pRnI0</p> <p>多言語社会論B https://youtube.com/shorts/Gzf8Ht3CVNo</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語や文化と、色の認識のかかわりに関し、手軽に読める入門書として、ガイ・ドイッチャー『言語が違えば、世界も違って見えるわけ』椋田直子訳、ハヤカワ文庫、2022年、があります。 ・問い合わせや各種相談は、次のGoogleフォームからお願いします： https://forms.gle/RtmecXvRUdyQyQnc6
学会や社会でこんな活動をしています	<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学出版局の理事長を現在つとめ、学術出版の困難さと意義を感じています。 ・2015年にパリ日本文化会館の招聘で客員教授を務めました。コロナ禍をへて、得難い体験だったとあらためて感じています。